



福井大学の 特色ある取組

2016年4月

2016年、福井大学は新たなステージへ

第3期中期目標期間スタート

国立大学法人は平成28年度～平成33年度が第3期中期目標期間として定められています。福井大学のさらなる機能強化に向け、平成28年度からスタートする第3期中期目標期間において、次のような重点的取組を掲げています。

教育

- ◆ グローバル化社会において地域創生を担う人材の育成
- ◆ 教育の国際通用性の向上
- ◆ 地域一体型教育の推進
- ◆ 学生に対する満足度の高い支援

研究

- ◆ 先端画像医学研究
- ◆ 遠赤外線領域開発・応用研究
- ◆ 教師教育研究
- ◆ 原子力安全・危機管理研究
- ◆ 子どものこころの発達研究

グローバル化

- ◆ 国際通用性の高い世界に開かれた大学への改革
- ◆ 世界で活躍できる高度専門職業人の育成
- ◆ 地域のグローバル化を牽引

社会貢献

- ◆ 地域の知の拠点としての教育研究
- ◆ 地域の教育力向上
- ◆ 地域医療の向上
- ◆ 産業発展のためのイノベーション創出

医療

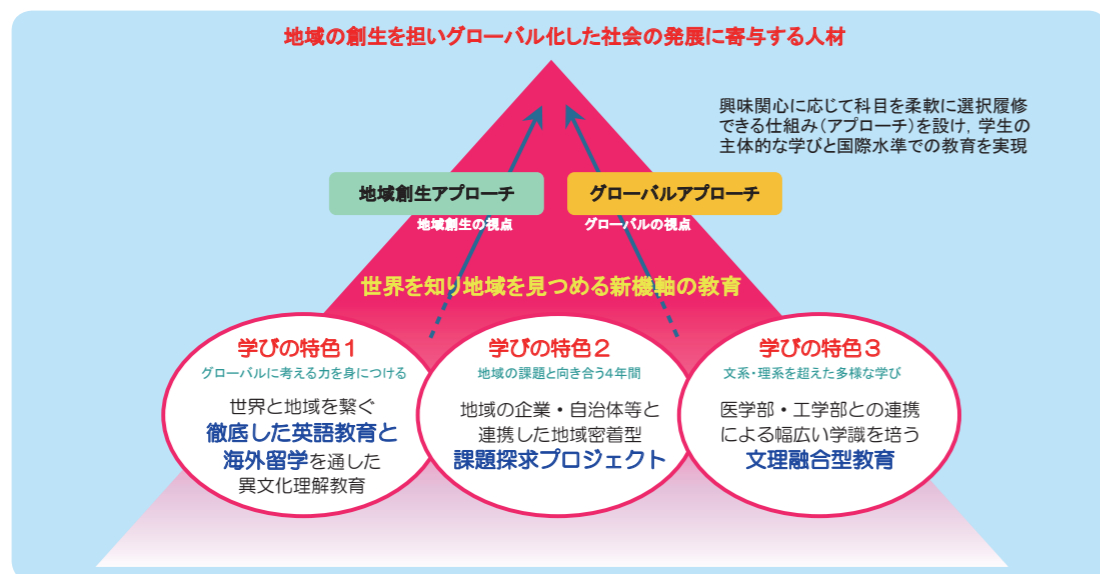
- ◆ 地域医療や先端医療を担う医療人の養成
- ◆ 高品質で高い安全性を有する医療の提供
- ◆ 県内唯一の特定機能病院として高度急性期医療機能の強化

福井大学は4学部体制の総合大学へ

新設 国際地域学部

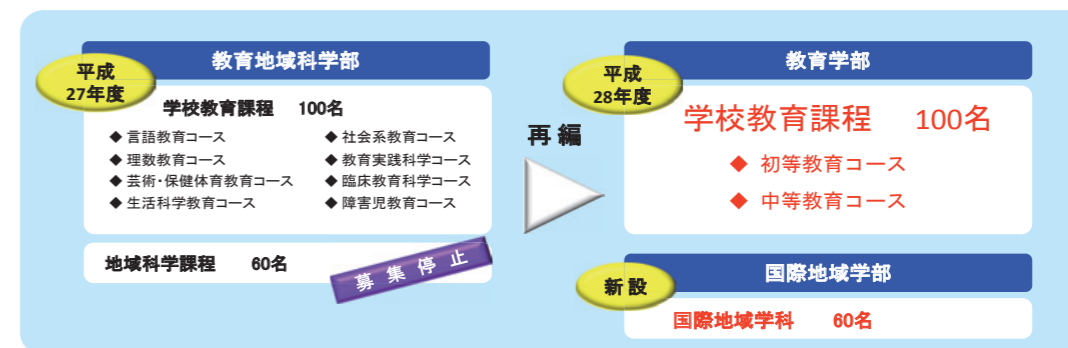
一県内の企業・自治体とともにグローバル化する地域の諸課題の探究と解決にチャレンジ

本学の第4番目の学部として、国際地域学部を開設。この新学部では、グローバル人材と地域再生・活性化人材を一体的なものとして育成します。



教育学部 ー教員養成に特化した学部へー

教育地域科学部を教育学部に再編し、新しい学校教育を担う教員を養成



医学部 ー医学教育の国際標準化ー

平成28年度からのカリキュラム改革で、国際標準に準拠した新カリキュラムを導入

医学教育の国際標準化促進

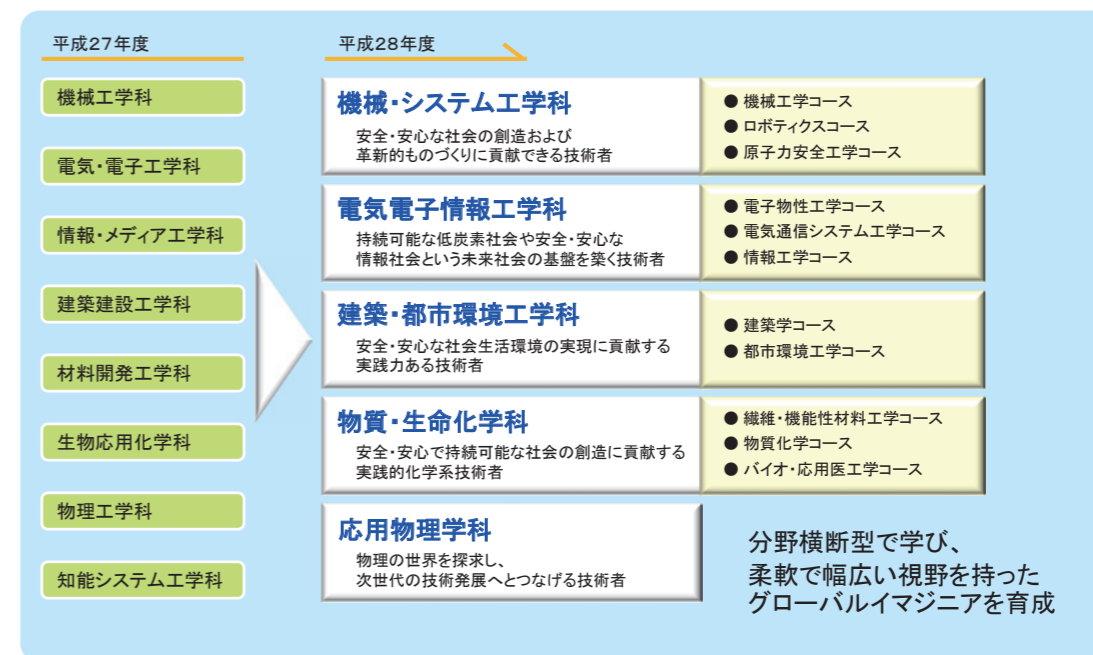
世界医学教育連盟が定める「医学教育のための質的保証」に準拠したカリキュラムを編成し、高度専門職業人として国際的に通用する医師の育成を促進

医学教育の国際認証評価に向けた取組み

学生用電子カルテ・ポートフォリオ・課題提出機能・教員用評価機能を一体化したシステム (Bed-side LMS) を整備し、有機的な臨床実習を実現するとともに、診療参加型実習の質と安全を保証

工学部 ー8学科から新5学科へー

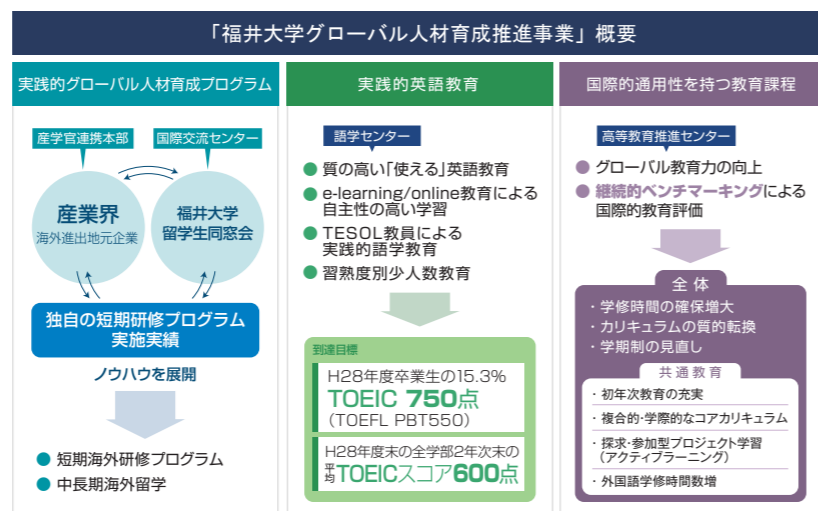
興味に応じて工学の幅広い分野を学べるよう8学科から5学科に再編



グローバル人材育成モデルの構築

－福井から世界へ－

福井大学では、「21世紀のグローバル社会において高度専門職業人として活躍できる優れた人材の育成」を掲げています。平成24年度に**東海北陸地区の国立大学で唯一採択**された、文部科学省の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」では、工学部・工学研究科を中心に「**世界的な視点をもった高度専門職業人の育成**」を目指し、様々な取組みを進めています。



これからの地方に必要なグローバル人材育成モデルの構築と実行を目指して

「語学センター」による実践的英語教育

- TESOL等を専門とした英語教育のプロフェッショナルによる**実践的英語専門教育**の実施。
※TESOL (英語を母国語としない人々向けの教授法)
- 言語開発センター (Language Development Center: LDC) にて、e-learningシステム、語学学習のための多数の教材を備え、充実した自主学習環境を提供。
- 交流スペース「Global Hub」での留学経験豊富な学生スタッフ、留学生との交流。



英語授業風景



遮音室の個別学習ブース (LDC)

国際的評価に基づいたカリキュラム改革

- 工学部及び教育地域科学部新生入生に対して、週2回の英語授業、TOEIC及び語彙テストを行い、習熟度別少人数クラス編成による教育を実施。
- 平成25年度末に実施した工学部1年次生全員を対象としたTOEICでは、入学時と比較して平均スコアが50点上昇する等、高い成果が挙がっています。
- 海外の先進大学の視察、海外の先進大学から講師を招聘して外部評価を行い、**国際的通用性を持つ教育課程の実現**を目指します。



海外先進大学視察風景



米ブラウン大学FDセンター長を招聘

実践的グローバル人材育成プログラム

- 学年や学習段階、各学生のニーズに合わせて留学できるように、目的や内容に応じて**6つの型の短期海外研修プログラム**を実施しています。留学を希望する学生に対しては、海外渡航経験がない学生でも、不安や問題なく研修に参加できるようサポートを行います。

短期海外研修プログラム

- 語学研修型 ■文化体験・交流型
- グローバル教養型 ■専門分野型
- 実践・インターンシップ型
- 研究・発表型

【平成27年度実績】
40プログラムを実施
計206名の学生が留学



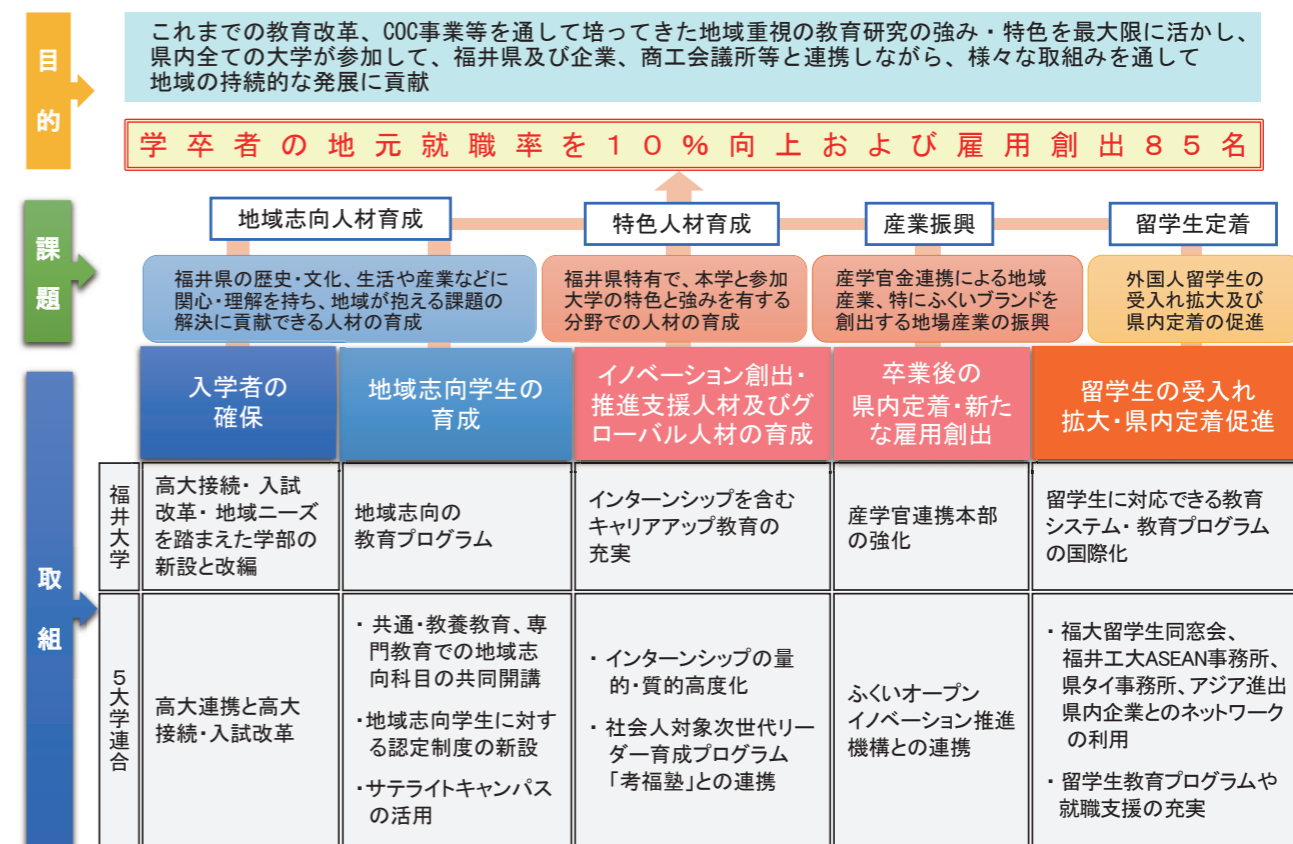
福井の地(知)の拠点づくり

－地域創生の担い手を育む5大学連携事業－

平成27年度、福井県内の4年制大学や自治体・企業等と協働し、地域を担う人材を育成することで、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上を目指した「**地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)**」に採択されました。

県内全ての大学(福井大学、福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、敦賀市立看護大学)が参加して、福井県及び企業、商工会議所等と連携しながら、様々な取組みを通して、地域の持続的な発展に貢献します。

具体的には、地域志向学生の育成、イノベーション創出人材・グローバル人材の育成、産業振興、「ふくい地域創生士」の認定制度等に取り組めます。その成果として、平成31年度に**雇用創出累積85名、学卒者の地元就職率を現状の48%から10%増加**させることとしています。



キックオフフォーラムを開催



本事業での取組みを地域へ情報発信することを目的として、キックオフフォーラムを開催。大学、地方自治体、企業などから約250名が参加。福井県知事と5大学の学長が、「福井県、県内大学との地方創生に関する協定書」に調印。事業概要説明、記念講演、「ALL 福井で育てよう “ふくい地域創生士”」をテーマとしたパネルディスカッションを実施 (H28. 2. 15)

子どものこころに取り組む

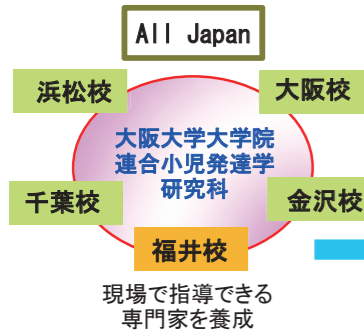
— 教育・研究・医療の成果 —

少子化が進む中、発達障害を含むこころの問題を抱える子どもが急増しており、未来を担う子ども達を守り育てていくために、急増原因の科学的究明と専門家の育成が急務となっています。

本学では、「**子どものこころの発達研究センター**」において、イメージング技術を駆使した脳機能の解明等に取り組むとともに、**附属病院「子どものこころ診療部」**では、子どものこころの問題の診断・治療を通して、子どもの問題行動への対処法の開発や、子どもを取り巻く養育者に目を向けた取組みを実施し、同時に子どものこころの問題に関する地域ネットワークの構築にも力を入れています。

さらに、**大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学の5大学連合**による、**学際的見地に立脚した大学院「連合小児発達学研究科」**では、All Japanの教育研究体制で、子どものこころの諸問題の解明に取り組んでいます。

これまでの主な成果



教育

子どものこころと脳の発達に関する高度専門家の育成

福井県内外の学校・病院・福祉施設等における発達障害児及びその養育者支援のための高度専門家を育成。



福井大学子どものこころの発達研究センター

主にイメージング技術を駆使した脳機能解明

研究

子どものこころ・発達障害の視線研究

視線計測検出装置(かおテレビ)により自閉症スペクトラム者の視線パターンを計測して唾液中オキシトシンの濃度との相関を調べ、自閉症スペクトラム者ではオキシトシン機能不全を示唆する所見がみられることを発見。



かおテレビ:子どもの視線を赤外線測定し、子どもの「社会性」の発達水準を数値化する。

福井大学附属病院子どものこころ診療部

子どものこころの問題の診断・治療

医療

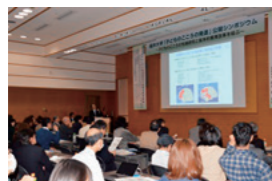
福井県

「子どものこころの診療医養成研修事業」

県健康福祉部障害福祉課と協働で、一般診察に携わる福井県下の医師向け研修講座を実施。



公開シンポジウムを開催



「子どものこころの発達」を科学的に解明し、その成果を教師教育研究につないで、こころの問題に適切に対応できる教員を養成することを目的として、公開シンポジウム『子どものこころの発達研究の成果を教育現場へ』を開催。

福井県内の教職員、医療職、一般の方など約150人が参加(H28.3.6)

学校拠点の教師教育の推進

— 知識基盤社会においてグローバル化に対応する教師教育モデル —

「学校拠点方式」:学校現場が大学院

大学教員が学校に赴き、学校の抱える課題に学校と大学とが協働して取り組む教師教育を「学校拠点方式」と呼びます。

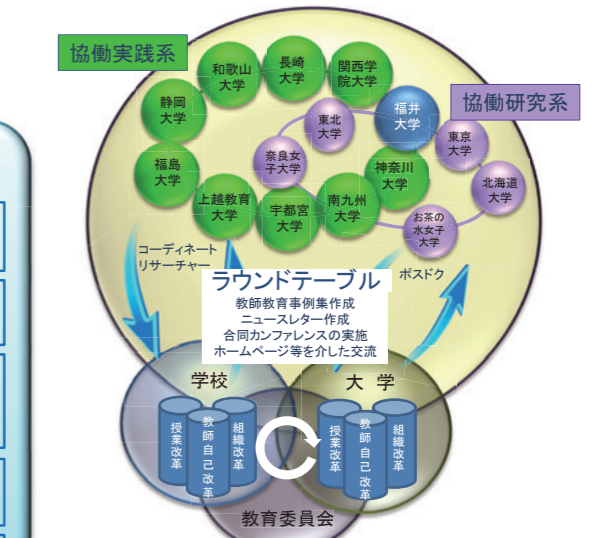


小中学校に大学院を創る

学校拠点方式の全国展開

協働ネットワーク体教職大学院

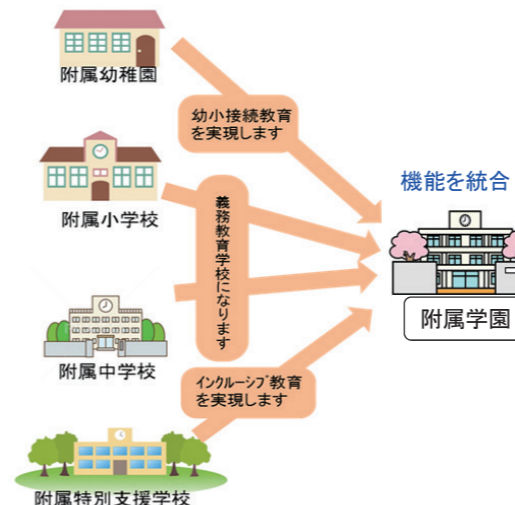
大学教員	実践と研究を連結する「 研究実践者教員 」が中心、多様な実務家教員
大学教員研修(FD)	毎週FDを実施、教育実践研究論文執筆義務化
授業形態	インターンシップをコアとする教育課程、チームティーチングで行うアクティブラーニング、学校の年間リズムに合った教育課程
教育委員会連携	教員研修との連携、教員研修センターの拠点化 等
大学間連携	教師教育改革コラボレーション、全国でラウンドテーブル開催、共同施設利用・単位の互換を目標



学校を大学院の学び舎とした教師教育の全国展開(教師教育改革コラボレーション)

大学一体型附属学校

学校形態	1学園
役割(教員養成)	教員研修校 公立学校教員異動により附属学校で研修できるシステム
役割(研究開発)	幼小・小中接続・インクルーシブ教育等の 職種間 の研究開発
大学との関係	教職大学院併設、大学教員の附属授業参加 等



地域を支える高度専門職業人

■教育地域科学部 ー地域の次世代を育てる教員の養成ー

○福井県の教員数（小中高・特別支援学校）7,492人
うち本学の卒業生数 3,086人



■医学部 ー地域医療を担う医療人の養成ー

○福井県の医師数 1,982人
うち本学の卒業生数 529人
○福井県の看護師・保健師・助産師数 7,446人
うち本学の卒業生数 234人
県内で唯一助産師を養成



■工学部 ー地域産業を創造する技術者の養成ー

○福井県のエンジニア、科学研究者 11,590人
うち本学の卒業生数 5,164人



※福井県のデータは、教：平成27年度学校基本調査、医：平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査、看：平成26年看護関係統計資料集、工：平成22年国勢調査より。
福井大学卒業生のデータは、平成26年度時点の同窓会データより。

実践を重視した教員の養成

■地域と協働する実践的教員養成プロジェクト

○学部教育

「ライフパートナー事業」

学生が、不登校児童生徒の学校、家庭を訪問し、「よき話し相手」として接し、交流を深め、児童生徒の自立を側面的に援助
一緒に活動する中で互いに信頼関係が生まれ、子どもの「心の支え」として活動



ライフパートナー事業報告会

「探求ネットワーク事業」

子どもたちと共に人形劇、気球・料理作り、まちかど調査隊などの探求活動を展開しながら、子どもの主体的な学習活動を支え、組織学習力を養う



探求ネットワーク事業

「教育実践研究」

学生が4年間かけて履修する総合実践プロジェクト。1年次から附属学校園等に出かけ、実践と研究を往還しながら活動



教育実践研究（教育実習）

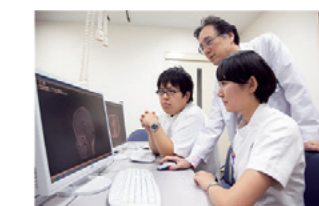
○大学院教育

「学校拠点方式」：学校現場が大学院
小中学校の現場（拠点校、協力校）を大学院の教室に

信頼し得る医療人・研究者の育成

■革新的画像医学教育：高度な画像診断教育で医師の「診る」を鍛える

人体解剖画像、病理組織画像、CT、MR、PETなどの先進的臨床画像や分子イメージング画像を、臨床基礎科目および臨床実習の場で利用し、高度化・精緻化する画像診断を、十分に活用できる医師を養成



医学画像教育用システムを活用する臨床実習

■看護：多様化する社会のニーズに応える専門的な看護力を育成

幅広い職業選択（看護師・保健師・助産師）ができる独自カリキュラムを実施。県内で唯一助産師を育成
大学院修士課程に、平成26年4月「災害看護専門看護師教育課程」、平成27年4月「がん看護専門看護師教育課程」を設置



看護実習

■全国初の大学院「地域総合医療学コース」の設置

平成25年4月に大学院医学系研究科「統合先進医学専攻」に全国初となる「地域総合医療学コース」を設置し、地域医療をリードする、質の高い総合診療医・ER救急医・家庭医等を養成

夢を形にする技術者 GLOBAL IMAGINEERの育成

■創造力と実現力を育む創成教育

学生の自主性や創造性、知識・技能を総合して問題解決する実践的能力の育成を目的とし、学科・学年の枠を越えた学生グループで各自の専門分野の知識も活用して学際的・具体的問題に取り組む



知能ロボットプロジェクト

■産業現場に即応する実践道場

業界の幅広い分野からの課題解決型の実践現場の提供とエキスパートの教育参加によって、広い視野をもち、自ら考え行動していく自律型産業人材の育成を目指す



フォーミュラカー製作プロジェクト

■繊維系大学連合による次世代繊維・ファイバー工学分野の研究および人材育成

大学院に「繊維・ファイバー工学分野」の専攻を有する信州大学、福井大学、京都工芸繊維大学が教育研究資源を連携・融合し、各大学の強みを活かし、3大学で繊維の世界をリードする繊維系大学連合の構築を目指す

グローバル化する地域の発展に寄与できる人材の育成

■2つのアプローチ

主に地域創生の視点から入る学び方「地域創生アプローチ」と主にグローバルな視点から入る学び方「グローバルアプローチ」を設け、学生の主体的な学びと国際水準での教育を実現する国際地域学部が平成28年4月にスタート



オープンキャンパスの様子

■国際的画像医学研究教育拠点

高エネルギー医学研究センター

サイクロトロン及びポジトロン断層撮影（PET/MR）装置を用いて生体の機能や病態を画像化し、疾患の診断と予防に関する研究を推進
 （米国ワシントン大学や放射線医学総合研究所他と学術提携）

主な取組内容

PET分子イメージングの包括的研究を推進

- ・新規PET薬剤等の開発研究や疾患動物モデルなどを用いた基礎研究
- ・PET/MRを用いた診断・治療に関する臨床研究
- ・脳PETや機能的MRI（fMRI）を用いた脳機能研究

画像医学研究を担う人材の育成

- ・医学、薬学、工学などの様々な学問分野における幅広い教育

医工連携による産学官共同研究

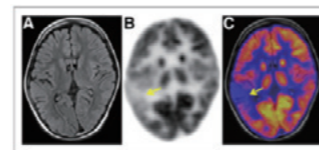
- ・パナソニック医工学共同研究部門を設置し、産学官共同研究を実践



センター外観



世界有数の最新型PET/MR装置



PET/MR画像

■遠赤外領域研究の世界的拠点

遠赤外領域開発研究センター

世界最高周波数（1テラヘルツ超え）を記録した独自開発の高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」を応用した遠赤外領域の研究を推進

主な取組内容

遠赤外（テラヘルツ光）領域の先進的・先導的研究

- ・高出力遠赤外光源「ジャイロトロン」のさらなる高性能化
- ・ジャイロトロンの高周波・高出力電磁波を利用した電子スピンのエコー測定装置の開発

テラヘルツ科学の研究推進

- ・レーザー光を利用した高いピーク強度のパルステラヘルツ波技術と分光技術を組み合わせたテラヘルツ科学の研究の推進

国内外の研究機関とグローバルなネットワークを構築

- ・国内外多数の研究機関と学術交流協定や共同研究覚書を締結し、グローバルな共同研究と学術交流を展開
 （海外12機関との学術交流協定、海外11機関との共同研究覚書を締結）



電磁波発生装置「ジャイロトロン」



高周波電子スピンのエコー測定装置



遠赤外技術に関する国際会議（2014年に福井大学で開催）

■世界トップレベルの原子力人材育成と研究開発

附属国際原子力工学研究所

人材育成

- ・原子力に関する学部基礎教育
- ・原子力・エネルギー安全工学専攻での大学院生の専門教育
- ・国内外からの研究者・研究員の受入れ、県内の原子力施設を活用した質の高い国際的人材育成

研究

- ・福井県嶺南地域の研究機関、民間企業等との共同・協力による、実炉を対象とした原子力の基礎・基盤研究
- ・フランス、アメリカをはじめとする海外の研究機関との活発な学術交流・国際的な原子力安全研究
- ・原子力の安全性向上、防災危機管理、廃止措置に関する研究

連携・拠点化

- ・北陸・中京・関西圏の大学、研究機関との連携
- ・原子力施設を核とした研究拠点の形成促進
- ・若狭湾エネルギー研究センターや各種ネットワークとの連携
- ・地域に開かれた研究所として、講演会、セミナー等を通じた地域貢献



研究所外観



国際的人材育成



実験室

新たな教育・研究活動等への展開

- ・平成27年度文部科学省「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」に採択され、本学が中心となり、西日本の大学や研究機関の連携による「福島第一原子力発電所の燃料デブリ分析・廃炉技術に関わる研究・人材育成」を実施



最高・最新の医療を安心と信頼の下で

■県内で唯一の特定機能病院として先進医療を提供

「地域医療の砦」として最重症疾患患者を受入れ

■大学病院初の北米型 ER 救急体制

一次救急から三次救急まで、全ての患者のニーズに応じた救急医療を、365日24時間体制で実践



全ての患者を受入れ
“地域医療の砦”として迅速に対応

■パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）と「看護総合力育成プログラム」の実現

全国初の「二人三脚方式」の病棟看護方式
新人看護師に対して育成チームによる支援体制



二人一組のチームで看護ケアを行う

■手術用ロボット「ダヴィンチ Si」

人の手以上に複雑な動作が可能のため、より安全で正確な手術が可能。
開腹せずに済み手術時間も短く、患者さんの体の負担を軽減。



「ダヴィンチ Si」による手術

■先端医療画像センター

微細病変を発見でき、がんの早期発見・早期治療につながる
PET-CT や、造影剤を使用せずに血管をきれいに画像化できる
3テスラ MRI 装置等が稼働

病院再整備第二弾

平成 26 年 9 月の新病棟のオープンに引き続き、現在は、中央採血室や中央処置室ゾーンの集約、患者さんのご家族が休憩できる家族控え室の設置等の病院再整備第Ⅱ期工事に着工

トピック

★目覚ましく進化した病院食

新病棟オープンを機に給食体制を一新し、世界初の過熱蒸気式加熱による「ニュークックチル」や集中温度管理システムの導入により、「より安全でおいしい」病院食を実現



エスカレータ棟内観パース



外来棟 1 待合内観パース



「ニュークックチル」を初採用

地域医療の担い手の育成

■福井メディカルシミュレーションセンター

県内すべての医療従事者を対象に、多様な実技トレーニングのできる研修施設を整備。検査・治療等の疑似体験カリキュラムを導入し、地域医療人教育を高度化

- ・地域医療を志す医学生、看護学生、研修医、新人看護師の実技訓練
- ・救急対応の標準化
- ・県内医療従事者の生涯教育の充実



内視鏡外科手術用トレーニングボックスでの実技訓練

■医師派遣

福井県内唯一の医学部として、県内を中心に157の医療機関に医師を派遣

■僻地医療を遠隔診断により支援

TV会議システム、遠隔病理診断及び遠隔画像診断による支援



TV会議システムを利用した医療支援

■地域医療を支える人材の育成

県内で働く医師確保を目的とした、福井大学医学部推薦入試枠「福井健康推進枠」から、平成 27 年 3 月に初めての卒業生 4 人を輩出

■産婦人科医が不足している地域の分娩を支援

分娩できる病院のない自治体（勝山市・大野市）の支援のため、設備を整備し分娩を受入れ

■地域の医師は、地域が育て、地域が守る

高浜町和田診療所、高浜病院等において学生や研修医教育を通じて地域医療再生の鍵となる家庭医・総合医を育成
平成 27 年 11 月に高浜町和田診療所の医師で医学部地域プライマリケア講座の井階友貴講師が、医療、保健、ライフサイエンスの分野で活躍する 35 歳以下の期待の精鋭の活動を顕彰する第 4 回「明日の象徴」を受賞



第4回「明日の象徴」を受賞

就職率8連覇

■産学官連携本部・URAオフィス ー産学官でイノベーションをハイブリッド推進！ー

○地域に根付くイノベーションエコシステムの整備

(目標) 地域企業に「技術開発」と「人材育成」に関するソリューションを提供し、その連携を通じて大学における多様かつ持続的な「知」の創出に貢献する。

ふくい方式の産学官連携活動

段階	内容	特徴
PLAN	地域の産業力強化戦略と先端・先進の「知」との融合による新しい地域共同研究プラン	人“財”の共有、大学を“現場”とする作戦会議
DO	産業界を巻き込んでイノベーション創造チームを構成し、プロジェクト研究を実施	責任企業の設定、製品化・事業化まで盛り込んだロードマップ作成
CHECK	研究成果を吟味して事業化への道筋を確認	企業内サテライト研究エリア、大学内共同研究拠点設定などリソースの相互提供
ACTION	企業が活用しやすい形への技術の洗練、事業化の支援、波及効果の明確化	学官が並走して事業化支援（省庁間橋渡し等）、官学協働で事業化までフォロー

教員、URA、事務職「協働」による持続的産学官連携活動への取組事例

「ひとつ屋根の下」の協働！

「ふくい産学官共同研究拠点」

燃料電池やめっき処理、レーザー微細加工などの研究に必要な最先端の試作・評価機器を30種類設置し、環境・エネルギーに関する共同研究を推進



先端機器を利用したコンサルティング

「オープンR&Dファシリティ」

学内の大型計測機器類を結集した研究開発施設を整備し、地域企業等と大学が連携してソリューション追求型の研究開発を推進



最先端計測機器

イメージを「見える化」する試作！

「インキュベーションラボファクトリー（ILF）」

大学のもつ技術シーズを、地域の「ものづくりの匠」の技を駆使して「試作品」を製作。市場性を問い、産業界へ橋渡し



(試作品の例)
油管理計 冬虫夏草抽出品

一心に「知」の創出に取り組む組織づくり！

「ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーション(URA)」

研究者とともに研究活動の企画・マネジメントを行い、大学における研究の卓越性を追求、社会がわくわくする「知」を創出
文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業採択（平成24年度：全国で10大学）



URA 主催によるワークショップ

高い就職率！

大学通信調査「全国大学実就職率ランキング 2015」において、本学は複数学部を有する国立大学において8年連続1位となりました。卒業生1,000人以上の国公私立大学においても2位となり、高い就職率を保持しています。



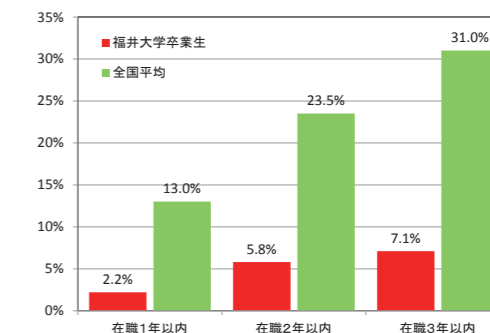
就職率ランキング 複数学部を有する国立大学

年度	1位		2位		3位	
	大学名	就職率	大学名	就職率	大学名	就職率
2015	福井大	96.1	名古屋工大	94.1	群馬大	94.0
2014	福井大	96.7	九州工大	94.4	東京工大	93.8
2013	福井大	95.8	名古屋大	94.2	名古屋工大	93.6
2012	福井大	95.8	九州工大	95.3	名古屋大	93.5
2011	福井大	94.7	岐阜大	93.1	名古屋大	93.0
2010	福井大	94.3	九州工大	93.9	東京工業大	91.3
2009	福井大	97.2	長岡技科大	95.9	九州工大	95.8
2008	福井大	95.3	九州工大	94.6	豊橋技科大	91.9

大学通信調査の「全国大学実就職率ランキング」就職率=就職者数÷(卒業者数-進学者数)

低い離職率！

在職期間3年以内の離職率(7.1%)は全国平均(31.0%)を大幅に下回っており、企業からその高い定着率が評価されています。



参考：福井大学の教育と卒業生についてのアンケート調査 2013(平成25年11月実施)及び「新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移(厚生労働省HP)」

福井大学が就職に強い3つの理由

1. 積極的なキャリア形成支援

- ・地域と密着した人間力育成事業の実施
- ・日々進歩・変化する医療現場への適応能力育成
- ・夢をかたちにする技術者育成の徹底

2. 学生を支える充実した就職支援体制

- ・就職担当教員、キャリアカウンセラーが内定までサポート
- ・本学独自のキャリアサポートシステムの運用
- ・就職活動の拠点サテライトキャンパスの設置

3. きめ細かな就職支援活動の実施

- ・充実した就職支援講座の開講
- OB・OGとの懇談会、学内合同・個別企業説明会 等

安倍晋三内閣総理大臣と懇談



本学の学生・卒業生が「地元福井への就職について」をテーマに懇談(H27.4.11)



キャリアカウンセラーによる就職相談

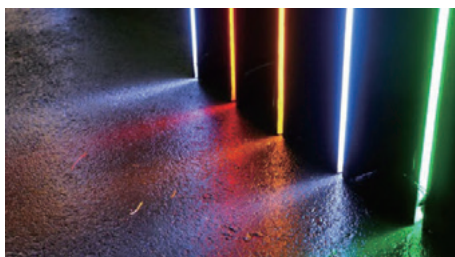


毎週開講される就職ガイダンス



学内合同企業説明会

灯りで心に感動を ■キャンパスイルミネーション



キャンパスイルミネーションは、平成 21 年冬に文京キャンパスで初めて開催され、翌年からは患者さんに優しい灯りを届けようとして松岡キャンパスでも開催しています。学生の思い出に残る感動を与えるイルミネーションとなるよう、学生自らが企画し、毎年行灯やオブジェを用いた様々な技術・工夫を重ねた福井大学ならではの「ものづくり」としての取り組みが行われています。学校・商業施設などからのご依頼を受け、学生が主体となってイルミネーションやプロジェクションマッピングの企画・運営にも取り組んでいます。



教育研究者検索をご存知ですか？

大学のHPから福井大学に所属している研究者(教員)情報を検索できます。
<http://www.u-fukui.ac.jp/>

所属組織・職名・氏名に加え、専門分野やキーワード検索もできます。ぜひご利用下さい。

「福井大学基金」ご支援・ご協力をお願い

学生の修学支援を目的として、福井大学基金を設立し、募金活動を行っています。本基金の趣旨をご理解いただき、ご支援・ご協力をお願いいたします。

福井大学基金事務室 HP <http://www.u-fukui.ac.jp/kikin/> TEL:0776-27-9903

●大学へのご意見・ご質問について、お気軽にお寄せください。

福井大学広報センター

〒910-8507 福井県福井市文京 3-9-1 TEL:0776-27-9733 FAX:0776-27-8518

メール koho@ad.u-fukui.ac.jp HP <http://www.u-fukui.ac.jp/> 

